



みんなの広場

— ソーシャルハウス —

ソーシャルハウスは、高崎市上豊岡町の就労継続支援B型事業所（定員20名）です。主な作業は人工光型植物工場内における葉物野菜の水耕栽培です。今回インタビュースるのは、今年の3月から利用を開始し、毎日一生懸命頑張っている利用者さんです。

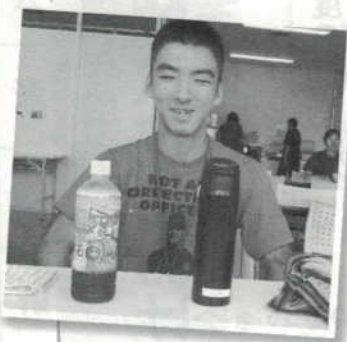
■自己紹介をお願いします
松本真拓です。18才です。

■ソーシャルハウスでどんな仕事をしていますか？
レタスの袋詰めや育苗や定植などの仕事をしています。

ぼくは、定植が好きです。

■趣味は何ですか？

テニスをする事です。スペシャルオリンピックス日本・群馬のテニスの活動に参加しています。毎週日



曜日にみんなとテニスをするのが楽しみです。

■今後チャレンジしたいことは何ですか？
ポッチャの体験をしたらおもしろかったので、ポッチャをはじめられたら良いなと思っています。

最後に一言
毎週火曜日にレタスの販売をしています。たくさんのお客様に来てもらいたいです。

待っています。



施設長の独り言

4年に一度のサッカーの祭典、ロシアワールドカップが開催されました。どの試合も見応えがあり、素晴らしいプレーに真夜中、声を押し殺して観戦しました。少々寝不足にはなりましたが、サッカーファンにとってワクワクする夢のような充実した1ヶ月間でした。

我が日本代表は、一次リーグは1勝もできないという予想を見事に跳ね返し、そして決勝トーナメントでは、一時2-0とし、優勝候補最有力のベルギーを慌てさせました。2点差あればもしかして：と、「次はブラジル戦！

西野監督、マイアミの奇跡の再現あるか！」などと勝手に勝利を意識し一人で盛り上がっていたら、あつと言う間に逆転され、ワールドクラスの壁の高さを再認識させられました。個人的な

今大会ベストゴールは、この試合のベルギーの3点目だと思っています。わずか9秒の高速カウンターの開始。後半アディショナルタイム、攻撃の始まりは日本のCKをキャッチしたGKのパスからでした。普通パンチングで逃

げるケースをキャッチにいったGKが立派に攻撃の起点となる、ワールドクラスのプレーを目の当たりにしました。日本にとって残念な失点でしたが、止める術のない天晴な得点でした。

優勝したフランスは守備と得点力の高さが上手に噛み合い安定した試合運びができたように思います。過去の自己主張が強く一筋縄ではいかないフランス代表の姿はここにはなく、若手中心でタレント揃いなのにチームがまとまっているように見えました。逆に前回大会優勝のドイツは、グループリーグで敗退しました。フランスとは逆に、守備も攻撃もチグハグで動いていなかったように思います。大会終了後、選手の一人が「勝てばドイツ人、負ければ移民」と人種差別を受けたとして代表を引退するとコメントがあり衝撃的でした。

ラグビーの言葉で「One for All, All for one」という言葉があります。最初の「One」は「一人」という意味ですが、二番目の「one」は「目的」や「目標」という意味だと聞いたことがあります。「一人はみんなのために」とあります。「一人はみんなのために」とあります。「目標」のためになりません。フランス代表チームのように、「優勝」という目標のために、「人種差別」や自己主張などわだかまりを捨てて、各メンバーがやるべきことを徹底してプレー（仕事）することで、目標に近づけるはずですよ。

私たちの仕事も、「One for All, All for one」だと思います。私たちの場合、二番目の「one」は「利用者も支援者もみんなの幸せ」としたいですね。
(まほろ 茂木 厚志)